
冷蔵庫が人を殺す

啓

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

冷蔵庫が人を殺す

【Nコード】

N2803T

【作者名】

啓

【あらすじ】

冷蔵庫とは時に非常な罰を与えます。

(前書き)

自サイトより転載。
大体実話です。

朝、牛乳を飲んだ。

賞味期限が切れていた。

あの冷蔵庫は俺を殺すつもりなのかとトイレに籠って文句と便を垂らした。

所詮相手は機械、管理する自分が悪いなんてことは分かりきっている。

それでも八当たりしなければ我慢できない。

腹を壊してトイレに籠っている今まさにこの時間、普段信じもしない神に祈り先祖を拜んでしまっている。

じつと痛みを耐えることが出来ず、太股の上で手を組んで只管呪詛のように戯言を呟く。

ごめんなさい、だとか。

お願いします、だとか。

賞味期限を守る、だとか。

借りた金も返す、だとか。

漸く痛みが引いて幾分かやつれた身体を引き摺ってトイレから出た。

目の前には忌まわしき冷蔵庫。

畜生、と悪態を吐いてそいつから期限切れの食材を全てゴミ袋にぶち込んだ。

食材だけに贖罪しろ、なんて苦笑も貰えないギャグを考えつつどうやってでも使い切れない10個パックの卵も全てぶち込む。

中で殻が割れても良いように袋は二重にしておいた。

そして冷気に当たったからか、また腹が痛み出す。

ああ、畜生。もう一度呟いてトイレのドアを開けた。

ケツを丸出しにして唸る俺は他の動物と同じだ。

文明も文化も投げ捨てさせる。

何かに縊るような気持ちで耐え続けなければならぬのだ。

それが自業自得だとしても。

目を細めるような快晴の昼であるつと白熱灯が照らす小さな個室で俺は動物になる。

太股の上で手を組み、名も知らぬ神や先祖、果ては爺さんや婆さんまでも言葉にして唸る。

俺は今日、冷蔵庫に殺されたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2803t/>

冷蔵庫が人を殺す

2011年10月9日01時57分発行